

居ルモ斯ノ如キ「アイデア」實現ノ爲ニハ國際聯盟ノ力ニ俟タサルヘカラス先ツ聯盟ヲシテスル「アイデア」ヲ抱カシメ以テ其ノ名ニ於テ世界ノ經濟的調節ヲ計ラシムルコト無難ニシテ捷徑ナリト信シ徐々ニ其ノ方面ニ働キツツアル次第ナルカ今之ヲ英國ニ見ルニ近年保守黨勢力ノ擡頭ト共ニ國家主義的色彩濃厚ニシテ旬日ノ中ニ迫リ居レル總選舉ノ結果ニ付テモ保守黨ノ勝利ニ歸スヘシトハ容易ニ想像シ得ル所ナルモ他方國際聯盟協會ノ如キ英本土タケニテモ頗ル廣ク多數ノ會員ヲ有シ輿論ノ構成上有力ナル「フアクター」トナリ居リ從テ如何ナル政府ト雖モ此ノ勢力ヲ無視シテ政策ヲ樹ツルヲ得サル情勢ニシテ英政府ヲ動かス上ヨリ云フモ先ツ聯盟側ニ働キ掛クルコトハ效果多シト認メ居レリ

*事項編注

昭和十年の海軍軍縮問題をめぐる日米間關係文書については既刊『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』を併せて参照。

2 日英外交關係*

164 昭和10年1月3日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

英國皇帝即位二十五周年祝典は質素を旨とし

外国より特派使節を招待しない意向との英國

式部長官の内報について

付記 昭和九年十二月十七日午後二時四〇分発広田外

務大臣より在英國松平大使宛電報第三五〇号

英國皇帝即位二十五周年式典に諸外国が特派使

節または軍艦等を派遣する企画の有無につき調

査回報方訓令

ロンドン 1月3日後発

本省 1月4日前着

第一號

貴電第三五〇號ニ關シテハ當方ニ於テモ過般來注意ノ上同僚等ニ就キ内査シ居リタルカ何レモ承知セス宮内省係官ニ於テモ充分承知セサルヲ以テ取調回答スヘシトノコトナリシ處三日式部長官ノ語ル所ニ依レハ今回ノ御大典ハ質素ヲ

尙話ハ別ナルモ英米兩國ハ其ノ關係今日程惡化セシコトハ自分(「ハ」)ノ未タ曾テ經驗セサル所ナルモ(「ハ」)ハ今次ノ伊「エ」紛争ニ際シ米國ハ英國ニ對シ其ノ期待スル程ノ「サポート」ヲ與ヘサルノミナラス國際聯盟ノ努力ニ對シテモ寧ろ冷淡ナル態度ヲ持シ國內ニ於テハ中立法案ノ通過等ニ依リ自國力歐洲紛争ニ捲キ込マレサランコトニ窮々タルヲ以テ英國側カスル米國ノ態度ニ對シ内心慊ラス思ヒ居ルコトヲ意味シタルナラント樺山伯ハ解シ居レリ)夫ニモ拘ラス今假ニ日米間乃至ハ日英間ニ何等カノ内争起ルトセハ英米ノ兩國ハ必ス相提携シテ日本ニ當ルコトナリ之ニ蘇聯邦モ加ヘテ極東ニ於ケル日本ノ勢力ニ對抗セントスル形勢ヲモ馴致スヘク此ノ點ニハ常ニ留意スル要アリ云々

旨トセラレ外國特派使節ハ招待セラレサルコトトシ外國政府ノ參加ハ在倫敦外交代表者ニ限ラルルコトト決定シタル趣ナリ

尙外國軍艦ノ參加ニ付未定ナルモ決定次第通報スヘシ

(付記)

本省 昭和9年12月17日後2時40分発

第三五〇號

貴電第四三一號ニ關シ

諸外國ニ於テハ英國皇帝即位二十五周年祝典ニ際シ特派使節

ヲ參列セシメ或ハ軍艦等ヲ派遣スル等ノ企テアリヤ夫レト

ナク御取調ノ上何分ノ儀至急御回電相成度

~~~~~

165 昭和10年2月12日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

南アフリカ法務大臣による英米提携論をして  
日本に警戒する英連邦自治領の意見を代表す  
るものとみなす中国紙の報道振りについて

特情 上海第二三號

晨報ハ十二日ノ紙上テ南阿聯邦法相「スマッツ」將軍ノ英米兩國提携論ニ言及次キノ如ク論シテ居ル

英米兩國ハ人種ヲ同シクシ日本ニ對スル利害モ一致シテ居ルノニ拘ラス合作力出來ナイノハ戰債問題、貿易上ノ利害衝突、米國ノ孤立主義等ニモ原因スルカ兩國實業家ノ滿洲ニ於ケル拔軋的態度ノ爲メモアル、特ニ英國ノ一部金融資本家カサウダ、「バーンビー」卿調査團ノ如キハソノ尤ナルモノテアル

然シ英國モ漸次四圍ノ情勢ヲ知ルニ及ンテ其ノ認識ヲ改メテ來タ様ダ

各自治領ノ如キモ皆日本ヲ警戒スル政策ヲ採ツテ居ル、「スマッツ」將軍ノ主張ハ自治領ノ意見ヲ代表スルニ足ルモノテアル

166 昭和10年2月12日

在英国松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ヲ強調セルモ米ハ容易ニ此ノ話ニ乗ラサルヘシ「スマッツ」ノ如ク世界平和ノ爲ニ盡力スルモ尙實際探ルヘキ目標ハ最近日本ノ與ヘタル華府條約ヲ廢棄スルモ建艦競争ヲナスノ意ナシトノ言質ヲ直接交渉ニ依リ有效ナラシムルニアルヘシ

「グアーディアン」、政府トシテハ時々對米協調ニ困難ヲ感スルコトアルナランモ「ス」ノ唱道スル所ハ何等正式ノ約束又ハ外交文書ヲ要セス只太平洋問題ニ關シ英米ハ能フ限り同一ノ考、原則、目標ヲ以テ進ムト云フニ過キス西洋ハ東洋ト友好關係ヲ維持シ得ヘク且之ヲ通シ日本ノ東洋搾取ヲ困難ナラシムルヲ得ヘシ

米及「ケープタウン」ヘ轉電セリ

(付記)

ロンドン

発

本省 昭和9年11月13日後着

特情 倫敦第三九號

滯英中ノ南阿ノ「スマッツ」將軍ハ十二日英國外交協會主催ノ「チャタム、ハウス」ニ於ケル晚餐會デ左ノ如ク述べ

南アフリカ法務大臣がケープタウンにおいて  
行なつた演説中極東問題に関する部分の英本  
国諸紙における反響について

付記

昭和九年十一月十三日着在英国松平大使より広

田外務大臣宛電報特情倫敦第三九號

南アフリカ法務大臣が英國外交協會主催の晚餐会において行なつた太平洋における日英協調の重要性を訴えた演説について

ロンドン 2月12日後着

本省 2月13日前着

第三六號

二月九日「ケープタウン」ニ於ケル「スマッツ」ノ演説ハ當地各新聞ニ詳報セラレ相當一般ノ注意ヲ喚起シ居レル處社説中極東問題ニ言及セル主ナルモノ左ノ通り

「タイムス」、英米ハ國際紛争ヲ平和的ニ解決センコトヲ基調トスル點ニ一致シ居レルカ故ニ兩國ハ凡ユル場合ニ戰爭ヲ國策ノ具トナササルヘキ信念ヲ實現スルコトハ適當ナルヘシ

「テレグラフ」、「スマッツ」ハ太平洋問題ニ付英米ノ協同

日英協調ヲ力説シタ

今日歐洲ノ諸政策ヲ動カシテキルモノハ恐怖心ト劣等感デアル、前者ハ事實ヲ明ルミニ出ス國際聯盟式ノ方法テ仲裁スベク又後者ハ獨逸其ノ他ニ完全ナ平等ヲ與ヘルコトニヨリ仲裁スル<sup>(マ)</sup>ノ外ハナイ吾人我が古キ友邦日本ニ對シ太平洋ニ於ケル協調ヲ危殆ナラシメヌヤウ熱心ニ且ツ最モ友誼的精神ヲ以テ訴ヘルモノダガ今回ノ海軍交渉力失敗ニ歸シテモ吾人ハ日本ニ對シ友誼的好意ヲ棄テテハナラナイ英帝國ハ新舊兩社會ニ密接ナ關係ヲ有スルモノデ英國ヲ通ジ此ノ古キ大陸ニ堅ク片足ヲ踏ムト同時ニ各自治領ヲ通ジ新世界ニモ他ノ足ヲ堅ク踏ムモノダ各自治領ハ英本國ヨリモ強ク米國ニ密接ナ關係ヲ有シテキル、ソレ故ニ吾人ノ極東政策モ凡テノ國ニ對スル親善ト何レノ國トモ特殊ノ同盟乃至諒解ヲ作ラヌコトヲ出發點トシ他方大戰ニ於テ米國ト聯合シテ以來顯著トナリ來ツタ米國トノ協調政策ニ合致シテ行クコトハ我が政策ノ究局<sup>(マ)</sup>ノ目標デナクテハナラヌ  
尙十三日ノ「タイムス」紙、「マンチエスター、ガーディアン」紙ハ右演説ノ明快サヲ賞揚シテ居ル

167

昭和10年2月23日 在英國松平大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

英国において連盟尊重派および親米派により  
 日本の対中国各種策動説が流布されているの  
 で適宜打消方意見具申

ロンドン 2月23日後発  
 本 省 2月24日前着  
 第四八號

往電第四七號ニ關シ

「スマツツ」ノ演説ハ當地ニ於テ豫想外ノ反響ヲ惹起シ聯盟尊重派及親米派ニ運動ノ機會ヲ與ヘ殊ニ曩ニ申進メタル「ローシヤン」卿ノ「タイムス」寄書中ニ於テ「ス」ノ演説ヲ引用シ日本ハ支那ニ銀恐慌救済ノ爲財政援助ヲ爲ス代リニ支那ニ對シ聯盟脱退、歐米人顧問驅逐、東亞「ブロック」ヘノ加入ヲ勸告シ居ル事(二月二十八日ノ大毎ノ報道ヲ引用)等ヲ上ケ英米提携ヲ主張シタル事ハ一層當地ノ輿論ヲ刺激シ爲ニ日本ニ同情ヲ有スル連中ハ頗ル憂慮シ Pigot, Jebb, Kennedy, Bland 等相繼イテ「タイムス」ニ於テ「ロ」ノ所論ヲ駁シタル處本件今後ノ發展ハ注意ヲ要スヘク幸ヒ

提出シ白書カ「サイモン」ノ伯林訪問直前ニ發表セラレタルハ時宜ヲ得ス又白書ノ内容ハ聯盟精神ヲ否認スルモノニシテ日支事變ニ際シ政府ハ聯盟ニ對スル義務ヲ怠リ聯盟ヲ無力ナラシメタルカ世界カ今日ノ情勢トナリタル眞因ハ此ノ失敗ニ存ス次ニ白書ハ軍備競争ヲ惹起スル俱アリ政府ノ政策ハ人民ヲ戰爭ニ導クモノナリト攻撃セルニ對シ「ポールドウイン」ハ今日ノ聯盟ハ普遍的ノモノニ非ス又大規模ノ軍縮モ望薄ナルヲ以テ差當ツテハ地方的協定ノミカ最大ノ希望トナレル處白書ハ英國力平和實現ノ爲ニスル任務ヲ果スニ必要ナル程度以上ノ兵力ヲ要求シ居ラス余ハ「ヒツトラ」ノ病氣ヲ信スルモノナルカ白書ハ獨逸ノミヲ問題トスルコトナク且獨逸ニ關スル部分モ余カ昨週述ヘタル所ヲ繰返セルニ過キス日米佛伊ハ素ヨリ倫敦條約ノ當事國ニ非サル諸國ニ於テモ多數ノ潛水艦輕巡洋艦ヲ建造シタルモノアルモ吾人ハ Escalator clause ヲ以テ對抗セス  
 唯代艦建造計畫セラルルノミ又露、日、伊、米ノ陸空軍擴張ニ對シテハ吾人ハ陸軍ニ付テハ裝備ノ缺陷ヲ補フニ止メ空軍ハ擴張スルモ右ハ一九二三年以來延期セラレタル内輪ノ計畫ヲ實行セントスルモノナリ尙近來各國民ノ思想ハ

二十三日ノ「タイムス」ニ王寵惠カ日本ハ支那ニ同盟、聯盟脱退、借款等ヲ提議シタルコトナシト言明セル趣ノ東京特電及日本ハ先決問題トシテ排日ノ中止ヲ希望シ居レリト

ノ上海特電掲載セラレタルコトハ輿論緩和ニ多少效果アルモノト認メラルモ此ノ際日本側ニ於テ「ロ」卿ノ問題トシ居ルモノニシテ事實無根ノ點ニ付明瞭ニ打消サルルニ於テハ「ロ」一派ノ議論ヲ根柢ヨリ覆シ親日派ニ有力ノ材料ヲ與フルコトトナルヘシト思ハル

168

昭和10年3月13日

在英國松平大使より  
 広田外務大臣宛(電報)

滿州事變につき英國政府は対連盟義務や対米  
 協調に關し努力不足との労働党側非難等同国  
 下院国防問題討議状況について

ロンドン 3月13日前発  
 本 省 3月13日前着

第八三號

十一日下院ニ於テ國防問題全般ニ關スル討論行ハレタリ先ツ「アトレ」ハ労働黨側ノ政府ノ政策ヲ非難セル動議ヲ

國家ノ地位ヲ重要視スルニ至レル處英國ハ實行最困難ナル「デモクラシー」ヲ依然維持スルモノニシテ本計畫ハ自國安全ノ爲ニスル穩健ナル要求ナリト答ヘ「サムエル」ハ各國ノ軍備ニ對シ執リ居レル態度ヲ遺憾トセリ次テ「オースチン、チエンバレーン」ハ「本員ハ貫徹出來サルヲ認メ政府ノ政策ヲ是認ス」トノ修正案ヲ提出シ聯盟ハ偶發的戰爭ヲ防止スルニハ有效ナルヘキモ計畫的戰爭ニ對シテハ無力ナリ、斯ル場合ニハ攻撃國ニ對シ壓倒的優勢ヲ示スノ外途ナシ労働黨ハ政府カ日支事變ニ關シ積極的政策ヲ執ラサリシコトヲ非難スルモ一休政府ハ如何ナル措置ヲ執ルヘカリシモノト思考スルヤ又南米ニ於ケル戰爭ニ際シ武器輸出ヲ禁止シタルカ平和ヲ招來スルヲ得サリキ労働黨ハ是等ノ場合經濟的措置ヲ執リ不十分ナラハ戰爭ニ訴フヘシトスルモノナリヤ惟フニ滿洲國打破乃至南京平和維持ノ爲戰爭スルカ如キハ國民ノ肯セサル所ナルヘシ聯盟規約カスルコトヲ期待スルモノナラハスル規定ハ實施スルヲ得ス將來ハ地域の相互保障協定ヲ以テ聯盟規約ヲ補強スルヲ可トスルモ之ニハ我國ノ實力ハ缺クヘカラサル前提ナリト述ヘ「コックス」(労働黨)ハ吾人カ日本ノ對滿行動ニ付政府ヲ非難ス

ル所以ハ政府カ米國ト協調シテ日本ノ侵略ヲ防止スルニ努力セサリシニアリ英米ノ公然ノ疎隔ハ確ニ日本ノ軍國主義ヲ力付ケタリト述ヘタルニ對シ「エデン」ハ英國政府ノ同意スルコト能ハサリシ如キ方策ヲ米國ヨリ發議セルノ事實ナシト答フ

次テ「スタフオールド、クリツプス」ハ相互援助ヲ前提トシテ兵力ヲ考フレハ英國ノ現勢力ハ決シテ不充分ナリトハ思ハス、更ニ日支問題、南米戦争等ニ對スル措置ニ付「チエンバレーン」ノ質疑ニ應シ労働黨トシテハ第一段ニ大使ヲ召還シ第二段ニ經濟的壓迫ヲ加ヘ最後ニ已ムヲ得スンハ武力ニモ訴フヘシト述フ、次テ「サイモン」ハ近年ノ英國軍備ノ低下ト之力正ノ要ヲ縷々事實ニ付説明シタル後今次提出ノ軍事費ノ如キヲ以テ英國カ聯盟ヲ裏切ルトカ歐洲ノ平和ヲ脅ストカ稱シテ何ノ利益アリヤ、一方的軍縮論ハ措キ不充分ナル現在ノ軍備ヲ以テ如何ナル紛争ニモ武力ヲ以テ干涉スヘシトノ議論ハ吾人ノ了解ニ苦シム所ナリ。政府ハ依然聯盟ヲ基調トスル政策ヲ持シ、獨逸ノ聯盟復歸ヲ計ラントシ居レリ。英佛會談後發表セラレタル倫敦宣言ノ協調的精神ハ今猶政府ノ精神ニシテ自分ノ訪獨モ此ノ精

國ニハ門戸開放主義殆ント行ハレ居ラスト述ヘF.B.I.ノ報告ヲ裏切ル如キ書振リヲ爲シ相當ノ注意ヲ惹キ居ルニ對シ「バーンビー」卿ニ派及親日派ハ極力前記言説ニ反駁ヲ加ヘントシ居ル情勢ナルカ時恰モ北鐵讓渡交渉カ最後の二纏リタリトノ報ハ當方面ニ好印象ヲ與ヘ居ル處右ニ關聯シ此ノ際何等カノ形ニ於テF.B.I.關係其ノ他英國側ニ向ケ例ヘハ現物支拂ノ爲ノ機械、部分品又ハ北鐵改築用ノ鐵材機械等若干ノ註文ヲ發セラルコトナラハ之ニ依リ日本ハ門戸ヲ閉鎖シ居レリトノ非難ノ論據ヲ根本的ニ覆シ日英關係ニモ好影響ヲ與フルコトト思ハルルニ付或ハ關係ノ向ニテハ既ニ御手配中カトモ存スレトモ右ノ見地ニ於テ註文實現方ニ關シ御斡旋ヲ得ハ好都合ナリ

170 昭和10年3月20日 在奉天峰谷(輝雄)総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北滿鐵道改築用資材の一部を英國より輸入すべきとの意見に対し大部分を日本品にあてたいとの在奉天鐵路総局の意向について

第五〇號

神ニ基クモノナリ。之ニシテ了解セラルレハ今回ノ白書ノ發表ノ如キハ何ノ實害ヲモ齎ササル筈ナリト述ヘ、最後ニ大多數ヲ以テ労働黨ノ動議ヲ否決シ「チエンバレーン」ノ修正案並ニ右修正案ヲ決議トシテ採擇スル案可決セラレタリ。

169 昭和10年3月13日 在英國松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

英國において反日的言説が台頭しつつある状況に鑑み北滿鐵道改築用資材の一部を英國に発注すべき旨意見具申

ロンドン 3月13日後発  
本省 3月14日前着

第八七號

最近當國ニハ例ヘハ「ロードロシアン」ノ寄書ノ如キ我方ニ不利ナル言説弗々擡頭シ來リ右ハ親米派乃至聯盟擁護派ノ策動ニ依ルモノト認メラルル處(「タイムス」、「オブザーバー」ハ「アスター」一派ノ勢力ノ下ニ在リ)過般ノ「タイムス」ニ連載サレタル「フレミング」ノ通信ハ滿洲

(1) 本官發滿宛電報

第五五號ノ一

英發大臣宛電報第八七號ニ關シ(F・B・Iヘ北鐵用品註文方ノ件)

「北鐵讓渡ニ件フ同鐵道改築上外國製品ノ需要申出ニ關シ御參考ノ爲當地鐵路總局側ノ意向ヲ尋ネタル處

(イ)北鐵ノ實情未詳ノ今日改築必要ノ程度等詳細ナラサルモ現在豫定シ居ル線路、車輛乃至橋梁補強材料等ハ品質及價格ノ點ニ顧ミ何レモ日本品購入ノ豫定ニシテ外國品購入ノ見込アルモノトシテハ僅ニ車輛工場施設用ノ旋盤、其ノ他日本品ニテ間ニ合ハサル小器具類、裝甲車ニ用フル特殊鋼輕油動車用「ディーゼルエンジン」及自動車ノ一部等位ニ過キサルヘク現ニ「ディーゼル」ハ試験的ニ最近英國ニ註文ヲ爲スコトナリ居レリ

(ロ)從來總局ノ材料購入方針ハ内外商ヲ問ハス適當ノ向ニ對シ競落セシメ其ノ結果外國品ヲ購入スル場合アルモ近年日本製品カ品質價格共ニ外國品ヲ壓倒シ居ル有様ニテハ右ハ純然タル「ビジネス」本位ニ立ツ以上已ムヲ得サル所ナリトノ趣ナリ

「在英大使發大臣宛電報特情第一一號「フレミング」ノ記事ニ關シ當地英國總領事及倫敦「タイムス」通信員ニ滿洲國ニ於ケル門戸閉鎖ノ實例ヲ尋ネタル處總領事ハ石油專賣法ヲ以テ一般人ニ大ナル惡印象ヲ與ヘタルモノト爲シ又同通信員ハ曩ノ保險契約問題及最近ノ萬國貯蓄會等ヲ指摘シタルモ右以外ニハ其ノ實例ヲ擧ケ得ス寧ロ同通信員ノ如キハ最近當地方面外商ノ凋落（英米煙草ノ如キハ却テ隆盛ニ向ヒツツアリ）ハ自然的競争ニ依ルモノニテ「フレミング」カ偶々是等外商ノ片言隻句ヲ綜合シテ日、蘇關係ノ危機等ト共ニ世上ノ注意ヲ惹カンカ爲ニ書キタルモノナルヘシ等ト述ヘ居リタリ（最近當地ノ外商狀況三月二十日附拙信普通第一九六號ニテ郵送ス）

以上御參考迄

大臣ヘ轉電セリ

171 昭和10年5月3日

広田外務大臣より  
在英国松平大使宛（電報）

英国皇帝即位二十五周年式典開始にあたり同  
国政府に対し我が方祝意表明方訓令

申上ケラレ度旨仰セラレタリ

尙兩陛下皇太子殿下ノ御健康等御尋ネアリ極メテ御機嫌麗ハシク種々御祝典ニ關シ御話アラセラレタリ

右可然執奏ヲ請フ

173 昭和10年5月13日

在英国松平大使より  
広田外務大臣宛

英国皇帝即位二十五周年にあたり公文により  
祝意表明に対し同皇帝および同国政府より深  
甚なる謝意表明について

付記 五月二十五日付山縣（武夫）宮内省式部職外事課  
長より日高（信六郎）外務大臣官房人事課長宛公  
信式部送第一〇三三二号

右二十五周年にあたり我が方天皇および英国皇  
帝との間に御親電往復について

普通第二一四号

（6月6日接受）

昭和十年五月十三日

在英

特命全權大使 松平恒雄（印）

第九四號

五月六日英國皇帝陛下即位二十五週年祝典ノ開始セララル  
ニ當リ英國政府ニ對スル帝國政府ノ祝意表明方可然御取計  
アリタシ

172 昭和10年5月11日

在英国松平大使より  
広田外務大臣宛（電報）

英国皇帝即位二十五周年にあたり同皇帝に拝  
謁し我が方天皇よりの御祝品捧呈に対し同皇  
帝より謝意表明について

ロンドン 5月11日後発  
本 省 5月12日前着

第一六七號

五月十一日皇帝ニ拜謁

天皇陛下ヨリノ御祝品ヲ捧呈シタル處陛下ハ非常ノ御  
満悦ニテ此ノ見事ナル御贈物ノミナラス天皇陛下當地ニ  
御來遊相成タル時以來陛下ト自分トノ間ニ存在セル友誼  
（friendship）ヲ「尊重」スル旨竝ニ陛下ニ對シ厚ク御禮

外務大臣 廣田 弘毅殿

英國皇帝陛下即位廿五週年祝典ニ際シ英國政府ニ對ス  
ル帝國政府ノ祝意表明方ニ關スル件

本件ニ關シ御電訓ノ趣敬承依テ五月七日「サイモン」外相  
ヲ往訪シ別紙甲号寫ノ如キ「ノート」ヲ手交ノ上帝國政府  
ノ祝意ヲ英國政府ニ傳達方依頼シタル處外相ハ帝國政府ノ  
好意ヲ感謝シ右祝意ハ之ヲ皇帝陛下ニモ奏上スヘキ旨述ヘ  
タルカ今般外務省ヨリ別紙乙号寫ノ通公文ヲ以テ英國皇帝  
陛下竝ニ英國政府ノ深甚ナル謝意ヲ帝國政府ニ傳達方依頼  
越タリ右報告ス

甲号

No.99

JAPANESE EMBASSY,

LONDON.

May 7th, 1935.

Sir,

Under instructions from my Government I  
have the honour to request you to be good enough  
to convey to His Britannic Majesty's Government

本省 5月3日後0時15分発

the most sincere congratulations of the Japanese Government on the auspicious occasion of the twenty-fifth anniversary of His Majesty's Accession to the Throne and their best wishes for the long continuance of His reign.

I have the honour, etc.

ニ付

FOREIGN OFFICE, S.W.I.

2959/376/23.

10th May, 1935.

Your Excellency,

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note No.99 of the 7th instant requesting me to convey to His Majesty's Government the congratulations of the Japanese Government on the twenty-fifth anniversary of my Sovereign's Accession to the Throne, and their good wishes for the long continuance of His Majesty's reign.

2. I have conveyed this expression of good

wishes to The King and have received His Majesty's commands to request you to be so good as to convey His sincere thanks to the Japanese Government.

3. At the same time I would ask you to express to the Imperial Government the warm thanks of His Majesty's Government for their message.

I have the honour to be, etc.,

(付記)

式部送第一〇三二號

(5月27日接受)

昭和十年五月廿五日

式部職外事課長 山縣 武夫(印)

外務大臣官房人事課長 日高 信六郎殿

御親電寫送付ノ件

今般別紙寫ノ通御親電ノ往復有之候

記

「英國皇帝陛下即位第二十五年祝典」際シ御祝電竝ニ對スル御答電

「ポーランド國ピルスズスキー元帥逝去」付同國大統領閣

下へ御弔電竝之ニ對スル御答電<sup>(省略)</sup>

英國皇帝陛下即位第二十五年祝典ニ際シ御祝電

陛下即位第二十五年祝典ニ方リ朕ハ茲ニ滿腔ノ祝意ヲ致シ陛下ノ福祉ト治世ノ悠久ナランコトヲ祈ルト共ニ貴我兩國間ニ存在スル好誼ノ更ニ鞏固緊密ヲ加ヘンコトヲ確信ス

昭和十年五月六日

御名

英國皇帝陛下

英國皇帝陛下御答電

朕ノ即位第二十五年祝典ニ方リ陛下ヨリ祝賀ノ辭ヲ領セルハ朕ノ深く滿悅スル所ニシテ陛下ノ表セラレタル慶福ノ意ニ對シ茲ニ誠實ナル感謝ノ意ヲ致サントス

貴我兩國間ニ幸ニ存在スル友好關係ノ倍加増進ニ就キ陛下ノ冀望セララルル所ハ朕亦衷心ヨリ其ノ感ヲ同ウス

テヨ一テ

東京

日本國皇帝陛下

千九百三十五年五月 七日午後六時三十分倫敦發  
八日午前四時四十五分宮内省内局着

His Majesty the King,

London.

On this auspicious occasion of the Twenty-fifth Anniversary of Your Majesty's Accession to the Throne, I take the sincerest pleasure in offering to Your Majesty my warmest congratulations and my cordial good wishes for Your glorious long reign, and at the same time assuring Your Majesty of my confidence that the most friendly relations so happily subsisting between our two nations will ever be fostered and further strengthened.

HIROHITO.

His Majesty the Emperor of Japan,

Tokio.

It has given me great pleasure to receive Your

Imperial Majesty's kind congratulations on the Silver Jubilee of my accession and I thank You most cordially for Your good wishes. I fully share the desire of Your Imperial Majesty that the friendly relations which so happily exist between our respective countries may increase and prosper.

George R.I.

London, 7/5/1935, 18.30

Kunaisho, 8/5/1935, 4.45m.

174 昭和10年6月12日

在英国松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

英国新外相を敬訪問にあたり同外相より対  
中国問題に関し日英協調維持の必要性強調に  
応ず

ロンドン 6月12日後発

本省 6月13日前着

第一九七號

六月十二日外務大臣新任挨拶ノ爲往訪ヲ求メタルニ付會見

ニ門戸開放ノ實無クF、B、I、「ミツシヨン」ノ無用ナ  
リシヲ非難セシムルニ至リF、B、I、幹部連ハ該「ミツ  
シヨン」日滿訪問ノ具體的效果力懸テ現レ來ルヘキヲ期待  
シ然ルヘク應酬シ來リタル次第ナル處其ノ後數箇月ヲ經ル  
モ何等具體的注文等ニ實現セサル爲反對分子ニ對スル立場  
モアリ焦慮ノ模様ナル一方今回ノ北支問題ハ當國ノ對日興  
論ヲ相當惡化セシメ居ルコトハ特情、所報ノ通ナリ就テハ  
此ノ際我方ニ於テF、B、I、關係ニ向ケ多少ニ拘ラス何  
等カ具體的注文ヲ發セラルルニ於テハ當方面ノ對日輿論ノ  
緩和ニ資スルコト尠カラスト認メラルル處冒頭往電申進ノ  
件ニ關スル其ノ後ノ御詮議ノ模様御回電ヲ請フ

176 昭和10年7月12日

在英国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

対日友好關係維持のために日中關係の安定を  
希望することにも言及した英国新外相の同国  
下院における外交基本方針演説について

ロンドン 7月12日後発

本省 7月13日前着

セル處「ホ」ハ一應挨拶ノ後當國輿論ハ御承知ノ通り日本  
ニハ概シテ友好的ニシテ殊ニ自分ノ所屬スル黨派ハ特ニ日  
本ニハ好意ヲ有スル次第ナリ但シ輿論ノ一部ハ將來支那ノ  
狀況ニ對シテ極メテ神經質ニナリ居ルニ付今後トモ是等ヲ  
鎮靜スル様努力スル積リナルカ日本側ニ於テモ之ニ協力セ  
ラレンコトヲ望ム旨述ヘタリ依テ本使ハ北支ノ狀況ニ付テ  
ハ情報ヲ有スル範圍ニ於テ我方ノ立場ヲ説明シ置キタリ

175 昭和10年6月12日

在英国松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

英国における対日世論緩和のため満州国より多  
少でも英国産品を發注すべき旨重ねて意見具申

ロンドン、6月12日後発

本省 6月13日前着

第一九九號(極秘)

往電第八七號ニ關シ

F、B、I、「ミツシヨン」ノ派遣及其ノ報告書ニ對シテ  
ハ當時既ニ我方ニ反感ヲ有スル方面ニ於テ相當反對論アリ  
タルカ滿洲石油問題其ノ後ノ發展ハ是等ノ分子ヲシテ滿洲

第二三九號

十一日「サミュエル、ホーア」ハ下院ニ於テ外務大臣トシ  
テ最初ノ演説ヲ爲セリ要旨左ノ通

「先ツ余ハ英議會及英國ト云ハンヨリハ他國ニ對シ自己  
ノ行動及外交問題ノ檢討ニ付今少シク率直ナル常識及寛容  
(generosity)ヲ持タンコトヲ德憑ス英獨海軍協定ハ利  
己的取極ニ非ス從來海軍問題ハ別個ニ取扱ハレ居リ余ノ了  
解スル限り他ノ海軍國モ同一見解ナリト信ス法律上ノ議論  
ハ措キ本協定ノ締結カ英政府ノ方針タル平和保持ノ爲必要  
ナルハ多言ヲ要セサル次第ニシテ海軍専門家モ本協定カ英  
帝國ノ安全ヲ害フコト無シトノ意見ヲ上申シタリ英トシテ  
ハ本協定ニ依リ對獨建艦競争ヲ避ケ佛モ戰前ノ對獨劣勢率  
三割ハ轉シテ四割三分ノ優勢トナレリ論理的法律的見地ヨ  
リハ吾人ト異ナレル見方アリ得ヘキモ英政府ハ實際的立場  
ヨリ該協定ヲ結ヒタル次第ニテ冷靜ニ事態ヲ考察セハ大多  
數ノ平和及軍縮論者ハ英國ノ措置ヲ賢明且現在唯一ノ方法  
ナリト了解スヘシ

「吾人ハ空軍制限ヲ含ム「エア、パクト」ヲ熱望シ其ノ緊  
要ナルハ何人モ異存無キ所ナルモ空軍問題ハ見掛け簡單ニ

非スシテ關係國中佛ノ如キハ平和機構ヲ以テ唯一不可分トシ部分的解決ヲ不可ナリトセル處其ノ所説ノ正シキハ殊ニ航空機ノ發達ニ依リ世界ノ重要問題カ相關連セラルルニ至リ何國ト雖孤立的行動ヲ執ルヲ困難トシツツアルニ徴シ明白ナリ從テ單ニ西歐諸國間ニ「エア、パクト」成立スルモ他ノ平和關係事項ノ解決ヲ見サル限り東歐ニ於ケル危險ヲ一層深刻化スルニ過キスト爲ス者スラルモ少クトモ余ハ過去ノ經驗ニ徴シ中歐又ハ東歐ニ戰爭勃發セハ其ノ一般化ハ殆ト疑ノ餘地無キヲ（以テ）此ノ理由ニ依リ英政府ハ東方及「ダニユーブ」不侵略條約カ速ニ締結セラレンコトヲ熱望スルモノニシテ壞太利ノ獨立カ歐洲平和維持ノ一大眼目ナルコトヲ明言セントス

三 國際聯盟ニ依ル集合的安全保障制度ハ平和維持ニ缺クヘカラサルモノニシテ英國政府ハ聯盟及其ノ主義ニ忠實タルヘク聯盟ノ根本主義ヲ弱メ又ハ破壞セントスルカ如キ危機ノ發展防止ニ最善ヲ盡サントシ此ノ見地ヨリ伊「ア」紛爭解決ノ措置探究ニ努メツツアル次第ナリ固ヨリ吾人ハ伊太利ノ擴張要望ニ同情ト理解ヲ有スルモ右要望ト「アビシニア」政府ニ對スル非難ハ開戦ノ理由トハナラス余ハ既存條

ス

六 吾人カ英支關係ヲ重視スルハ英使臣ノ昇格及移駐竝ニLeith Rossノ派遣ニ依リ明カナルヘシ政府ハ支那ノ秩序及安定ハ日支友好關係ノ増進及同様ナル利害關係及目的ヲ有スル他ノ國トノ協力ニ依リ維持セラレルモノト確信ス要スルニ門戸開放主義ノ維持及支那自主權ノ完全ナル確認ハ英國ノ對支政策ノ基調ニシテ支那力其ノ歴史的的地位ヲ回復スル爲ニハ東方ヨリノ援助ト同様西方ヨリノ援助ヲモ必要トスヘシ

七 對米關係ハ極メテ良好ニシテ今後共然ルハ疑ノ餘地ナシ英カ米ヨリノ何等カノ提案ヲ拒否シタリトノ風評アルモ未タ何等ノ提案モナク從テ其ノ拒否モナシ米ヨリ吾人ニ對シ協力ノ提議アラシカ英政府力之ヲ歡迎セサル理由ナシ在歐各大使、米、壽府ヘ郵送セリ

177

昭和10年7月13日

在英国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛（電報）

英国政府が日本の中国に対する進出を傍觀したことを非難した同国下院における外交問題

約ノ認ムル一切ノ手段ニ依リ戰爭防止ニ努ムヘク余ハ此ノ機會ニ於テ英國力紛爭地域近接英領ニ兵力ヲ集中シツツアリトカ佛ニ對伊封鎖參加方ヲ勧誘セリトカ又ハ英單獨ニテ伊國壓迫ノ舉ニ出ツトカ等ノ風説ハ全ク根據無キコトヲ斷言ス

四 佛國トノ傳統的友好關係ハ吾人ノ重視スル所ニシテ英國ハ新シキ友邦ヲ得ンカ爲ニ舊來ノ友情ヲ犠牲ニ供スルノ意ナク伊太利ニ關シテモ同様ナリ蘇聯邦トノ政治上、通商上ノ關係ハ今日程良好ナリシコトナク吾人ハ政府ノ如何ヲ問ハス歐洲平和維持ヲ熱望スルモノト右目的ノ爲協力セントス

五 吾人カ如何ニ日本トノ友好關係ヲ重視スルヤハ冗言ヲ要セス英國人ハ日本トノ諸種ノ共通點ヲ有ス皇室ノ恩惠ニ浴シ又海軍問題ヲ重視スルハ其ノ例ナリ兩國ノ通商力競争シ時ニ角逐スルコトアルモ紛爭ヲ生シタルコトナキハ同慶ナリ吾人ハ最善ノ友好關係ノ維持ヲ切望スルト共ニ英國ニ於ケル日本ノ友人ハ北支那ニ於ケル最近ノ事態ニ付不安動搖ヲ感シツツアルコトヲ率直ニ述ヘ度シ要ハ右不安力消滅シ前記吾人ノ希望カ何等ノ障礙ナク充サレンコト希望ニ堪ヘ

## 討議について

ロンドン 7月13日後発

本 省 7月14日前着

第二四〇號

往電第二三九號ニ關シ

十一日下院外交討議ニ於テ日、佛、伊三國ノ名ハ屢其ノ話頭ニ上リタル處「ロイド、ジョーヂ」ハ外相ハ日獨兩國ニ對シ極メテ友好的字句ヲ用ヒタルカ右二國及伊國カ聯盟ヲ愚弄シタルコトニ付一言モセス日本ハ聯盟ヲ無視シ支那ヲ蠶食シ英國ノ通商ヲ驅逐シツツアリト述ヘ「モルガン、ジョーンス」ハ（労働黨）吾人ハ日本ト戰爭ヲ欲スト非難セラレタルモ吾人ハ何國トモ戰爭ヲ欲セス只聯盟國トシテノ義務ニ忠ナラント欲シタルノミ然ルニ政府ノ拱手傍觀ノ結果滿洲熱河ノミナラス蒙古スラモ脅サレ該地方ニ於ケル英通商關係ノ完全ナル破壊ヲ來セリト述ヘタリ冒頭電報通り郵送セリ

178

昭和10年7月(15)日

在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛（電報）

英国下院における同国新外相の外交演説を日  
中経済関係促進により東亜の安定を希望した  
ものとして歓迎する中国紙論調について

上海 発

本省 7月15日後着

特情 上海第五九號

英國系新聞「ノース、チャイナ、デーリー、ニユース」紙ハ十五日ノ紙上ニ「英國ト支那」ト題スル社説ヲ掲ケ外相「サー、サミュエル、ホーア」氏ノ外交演説ニ言及次ノ如ク述ヘテ居ル

「ホーア」外相ハ今回ノ演説ニ於テ刻下不安ノ状態ニアル國民政府ニ對シ同情ト友好的態度トヲ示シタ

外相カ特ニ支那ニ於ケル門戸開放ノ維持ト支那ニ自國ノ運命ヲ統制スル權利ヲ充分承認スルコトカ英國外交政策ノ基調ナルコトヲ闡明シタノハ寔ニ妥當テアル外相ハ更ニ日支兩國間ニ於ケル協調ノ必要ヲ強調シ過去ニ於ケル日本ノ業績ニ對シ友誼的讚辭ヲ呈シテ居ルカ以上「ホーア」外相ノ述ヘル所ハ日支兩國經濟關係ノ促進ヲ要望スルニ他ナラス東亞ノ安定ヲ維持シ且支那ノ國力發展ヲ要望スル友邦トシ

シ「ア」カ現政府ハ一方、法ノ擁護ヲ叫ヒツツ他方侵略者ニ満足ナル解決ヲ與ヘントスルハ矛盾ナリト攻撃シタルニ對シ「ボ」ハ政府トシテハ條約破棄ノ防止ニ努ムルト共ニ其ノ間平和的解決ノ機會ヲ捉フルニ努メサルハ誤ナリト反駁シ又國防問題質問ニ對シテハ「クリスマス」休會後具體案ヲ得ヘシト答辯シタリ

次テ五日下院ニ於テ勞働黨「ダルトン」ニ依リ支那問題、埃及關係及對伊制裁等外交問題ノ一般ニ亘リ四十分ニ亘ル質問アリ此ノ内支那問題ニ付テハ北支分離事件ニ對シ政府ノ執リタル措置及「リースロス」ノ派遣ハ徒ニ日本ヲ刺戟シ事件ノ進展ヲ促進シタル以外何等ノ效果ヲ齎ササリシニアラスヤトノ點ヲ質シタル末同日病ヲ押シ出席シタル「ボ」外相亦約四十分ニ亘リ詳細ナル答辯ヲ與ヘタルカ其ノ要旨ハ第一極東問題ニ付本年始以來支那經濟財政就中幣制ノ混亂著シキニ顧ミ此ノ際何等カ救済策ヲ講スルコトノ必要並ニ之カ爲ニハ支那及關係列國間協力ノ必要ナルニ鑑ミ委細關係國ニ通報スルト共ニ「リースロス」ヲ右調査ノ爲派遣シ且ツ列國ニ於テモ同様ノ措置ニ出テラレ度キ旨申入レタルモ列國ノ應諾スル所トナラサリシ次第ナリ然ル所「ロス」

テノ日本ノ役割ニ付廣田外相ノ主張ヲ確認スルモノテアル特ニ惡意ヲ抱ク論者以外「ホーア」外相ノ演説ニ對シ別個ノ解釋ヲ下スコトハ出來マイ斯ク「ホーア」外相ハ日支兩國間ノ友好關係強化ヲ熱望シテ居ルカ「ホーア」外相ノ述ヘテ居ル通り支那ニ付同様ノ目的利益ヲ有スル總テノ國家間ノ協力ニ基キ斯ル友好關係ノ發展サセ得ヌ理由ハ毫モ無イ

179 昭和10年12月6日 在英国藤井臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中国幣制改革問題および華北自治問題等我が  
方とも関係が深い中国問題にも言及した英国  
議会における討議について

ロンドン 12月6日後発  
本省 12月7日前着

第三九七號

<sup>(1)</sup>三日新議會開カル「キングス、スピーチ」後反對黨首領「アトリ」ノ質問演説ニ對シ「ボールドウィン」ノ爲シタル答辯ハ主トシテ國內問題ニ言及シタルカ外交問題ニ關

カ上海ニテ支那當局ト協議中支那政府ハ突如爲替上ノ危機ニ遭ヒタル爲十一月四日幣制改革令ヲ發シタルカ

<sup>(2)</sup>右支那政府ノ措置ハ「ロス」ノ「アドバイス」ヲ求ムルコトナク彼等自身ノ「イニシアチブ」ニ基キテ爲サレタルモノナリ其ノ後右改革ハ好評ヲ以テ迎ヘラレ現ニ信用及貿易ノ恢復上ニ效果ヲ齎シツツアリ(此ノ時議員中ヨリ賛成ノ聲多シ)又所謂北支自治運動ニ付テハ先般來此ノ種ノ風説行ハレ最近ニハ滿洲國境河北省方面ニ本運動ヲ強制スト考ヘラルル矢先事件ノ發生及日本軍ノ行動カ右運動ト關聯スルモノトノ想像等アリタルニ鑑ミ政府ハ事態ヲ憂慮シ在京代理大使ヲシテ隔意無キ日本ノ方針ヲ尋ネシメタル處自治運動ハ純然タル支那人ノ運動ニシテ(此ノ時反對黨ヨリ笑聲起ル)日本政府ハ其ノ利害關係上之ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ居ルモノナルモ日本カ軍事的干涉ヲ計畫シツツアリトノ考ハ全然無根ナリ(此ノ時笑聲再ヒ起ル)又軍ノ行動ハ團匪議定書ニ基クモノナルコト及「ローリング、ストック」ノ南下防止ノ爲ナリトノ回答ニ接シタリ現在同方面ノ事態ハ猶ホ未タ明確ナラサルモ英國政府トシテハ現ニ進行中ナル日支交渉ニ依リ速ニ事態ノ圓滿解決センコトヲ望ムモ

ノナリ唯最近日本カ支那ノ内政問題ニ干渉 (influence is being exerted) ストノ疑念ヲ強カラシムルカ如キ事件ノ發生ハ其ノ當否ノ如何ヲ問ハス日本ノ爲ニ不幸ニシテ右ハ日本ノ威信ノ爲ニモ亦列國トノ友好關係ヨリモ採ラサル所ナリ云々ト言フニアリタリ

次テ埃及關係ニ付テハ過日「ホ」カ「ギルドホール」ニテ爲シタル演説カ埃及人側ノ誤解ヲ惹起シタルコトヲ遺憾トスルト共ニ埃及側ノ要望ニ對シテハ自分トシテモ多大ノ同情ヲ持ツモノナリトノ釋明的所見ヲ述ヘ又對伊制裁ニ付テハ「ダ」カ現政府ノ制裁實施措置力緩慢ナルコトヲ攻撃シタルニ對シ「ホ」ハ右攻撃ハ聯盟ノ一員トシテノ英國ノ行動ヲ誤解スルモノニシテ聯盟ノ基礎ハ飽迄協同動作タルヘク單獨行動ハ聯盟自身ノ爲ニモ却テ有害ニシテ吾人ハ既ニ主義上決定セラレタル制裁ノ實施ヲ躊躇スルモノニアラス又壽府ニ於ケル委員會開催延期ハ對伊態度ノ軟化ヲ意味スルモノニアラスシテ何トカ平和的解決ヲ得セシメン爲ノ一層ノ努力ニ外ナラス將又吾人ハ伊太利ニ對シテハ飽迄友好

#### ＊事項編注

昭和十年の海軍軍縮問題をめぐる日英間關係文書については既刊『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』を併せて参照。

### 3 日ソ外交関係(含 第七回コミンテルン大会)

180 昭和10年1月25日

広田外務大臣より  
在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)

#### 北樺太石油会社による試掘権延長問題に関し

#### ソ連側当局と適宜交渉方訓令

本省 1月25日後8時発

#### 第一二號

北樺太石油會社ニテハ試掘期限延長ニ付「ソ」側ヨリ一應不同意ノ旨回答アリシ爲貴官ヲ煩ハシテ更ニ「ソ」側ニ申入ルルコトナリ一方事業當面ノ必要上十年度計畫事業ノ完了確保ニ付交渉方小宅宛訓電セルカ貴官ハ「ソ」側當局ニ對シ試掘期限延長方ニ付適宜交渉セラルルト同時ニ右トハ別ニ十年度計畫事業ハ千九百三十六年十二月後モ其ノ完了作業ヲ繼續シ得可キモノナリトノ會社ノ主張ヲ支持シ「ソ」側ノ同意ヲ取付クル様御盡力相成度シ

的關係ヲ保持スルモノニシテ英國ハ佛伊關係ヲ惡化セント試ミツツアルモノナリトノ疑念ノ如キハ何等ノ根據ナキ所ナリトノ趣旨ヲ以テ一方英伊ノ關係ヲ考慮シツツ他方石油其ノ他ノ制裁手段ノ實施ニハ關係國ト共ニ歩ヲ一ニスヘシトノ態度ヲ明カニスル所アリ其ノ他前記「アトリー」ノ質問ニ對スル答辯トシテ世界資源ノ分配問題ハ政治乃至領土問題トハ別個ニシテ純然タル經濟問題而モ買フコトノ問題ニアラスシテ賣ルコトノ問題ナリトシ又空軍縮少問題ハ伊「エ」紛爭最中ノ今日直ニ取上クルコト困難ナリトノ趣旨ヲ答辯シタリ

尙同日聯盟事務大臣「イーデン」モ制裁問題ニ關シ今次制裁ハ關係國慎重考慮ノ結果ニシテ右ハ素ヨリ關係國トシテ享クル所ノ打撃大ナルモ尙五十ノ各國カ夫々其ノ責任ヲ引受ケントスル所以ハ世界ノ秩序維持ニ熱心ナルカ爲ナリトノ趣旨ヲ述フル所アリタリ

在歐各大使、米ニ暗送セリ

181 昭和10年1月25日

在アフガニスタン北田(正元)公使より  
広田外務大臣宛(電報)

經濟、司法、宗教等各方面に関するソ連国内  
住民の不滿が高まりつつあり同国は日本との

戦争を極力回避したい意向との情報について

カブール 1月25日後発

本省 1月26日前着

#### 第一〇號(極秘)

當國總理及外務大臣ノ談話ニ依レバ(他ノ當地情報モ一致ス)目下蘇聯ノ主トシテ工業方面ノ計畫ハ相當進捗シ國力ハ充實シ居ルモ歐露其ノ他ノ窮狀ハ頗ル甚タシク「トルキスタン」人民ハ辛クモ食ヲ得ル點ニ於テ他地方ニ優ルモ農民商人智識階級ノ不滿ハ充滿シ同教共和國自治區ノ軍隊警察政治行政ニハ住民參加セス露本國人其ノ他異人種當リ居ルモ内部ニハ軋輾アリ經濟問題以外司法宗教等各種問題ニ付全同教徒ハ壓制ヲ受ケ形勢險惡ニテ各地方共一般ニ戰爭又ハ大事變ノ起ルヲ待チ居ル狀勢ナリ蘇聯本部内ニモ不純分子アリ其々要人ハ日獨兩國ヲ恐レ殊ニ日本トノ戰爭ハ極力回避ノ方針ニテ十年位ハ隱忍ヲ要スト當國大使ニ語リタルコトアリ當國及印度ニ對